

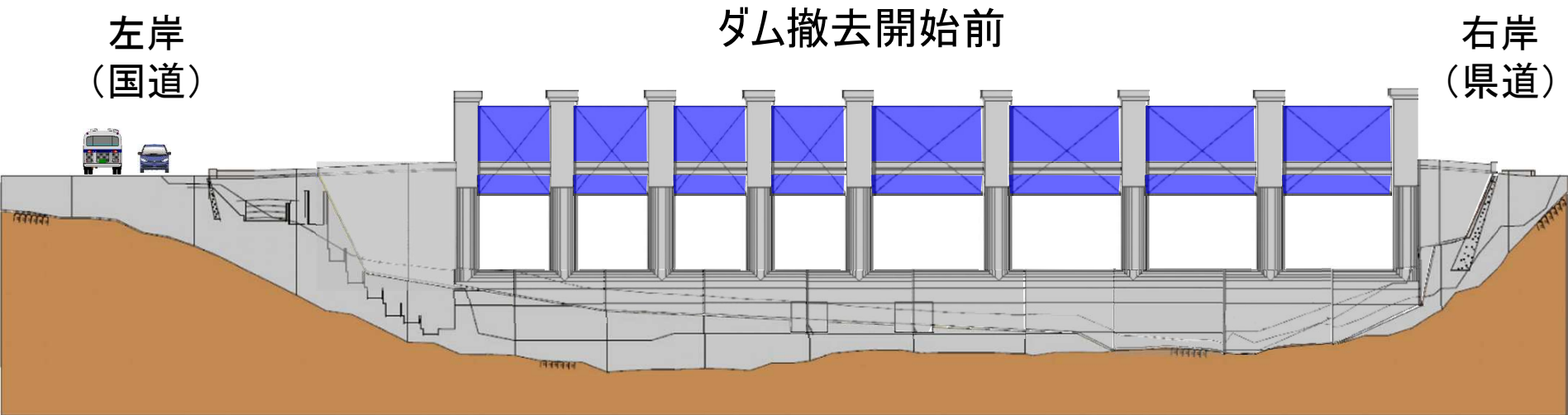
荒瀬ダム撤去工事及び 環境モニタリングの状況等について

資料1

平成25年7月5日
企業局荒瀬ダム撤去室



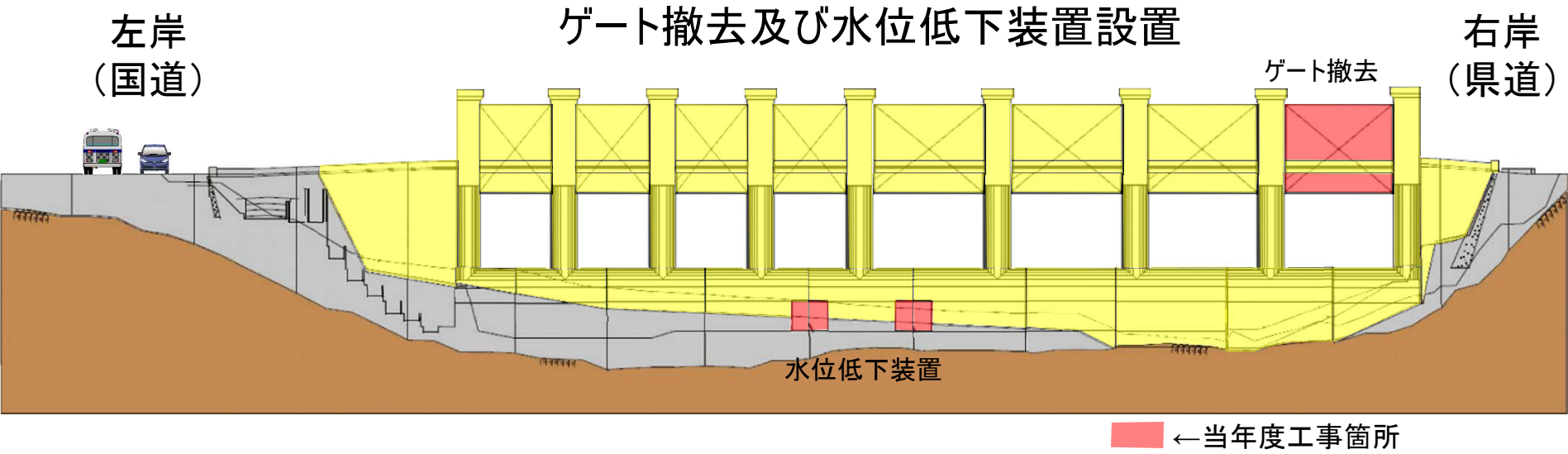
ダム撤去施工計画 について



第1段階

◆平成24年度◆

水位低下装置設置及びゲート撤去(右岸側1門)



第1段階

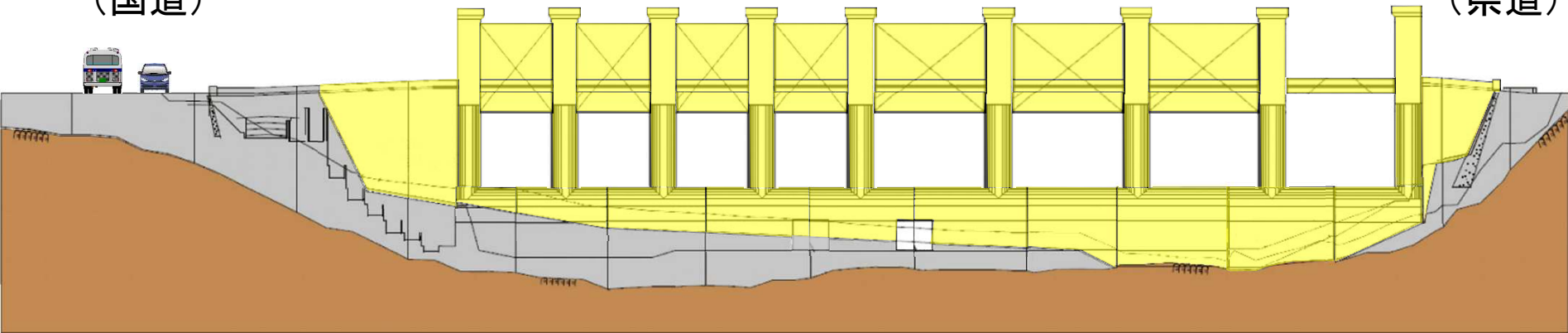
◆平成24年度◆

水位低下装置設置及びゲート撤去(右岸側1門)

左岸
(国道)

第一段階完了(上流部の水位低下)

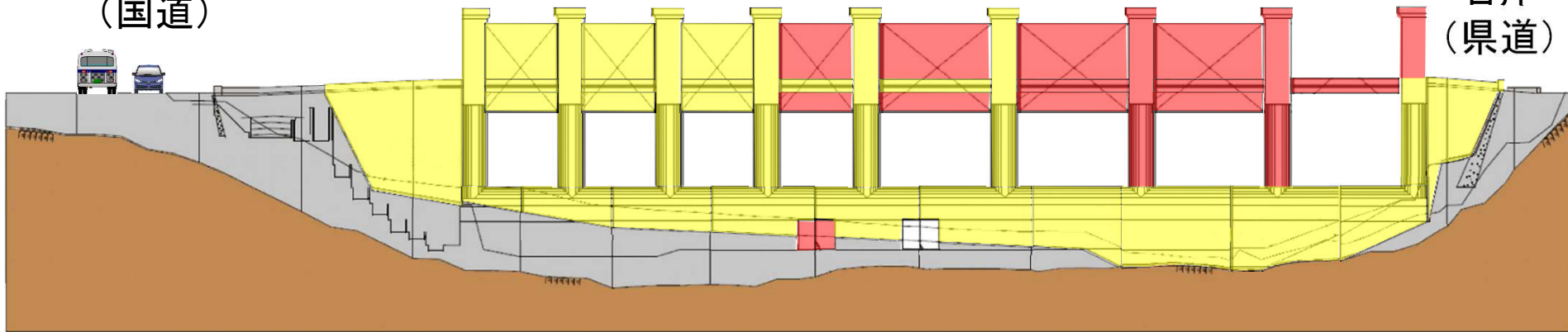
右岸
(県道)

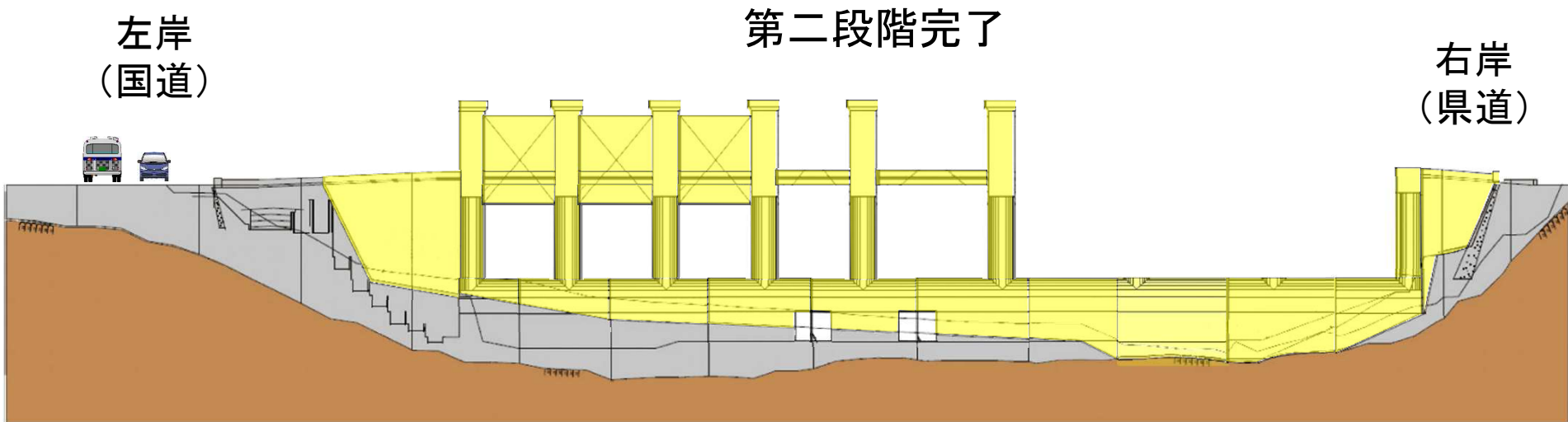


左岸
(国道)

ゲート(4門)及び右岸門柱・管理橋撤去

右岸
(県道)

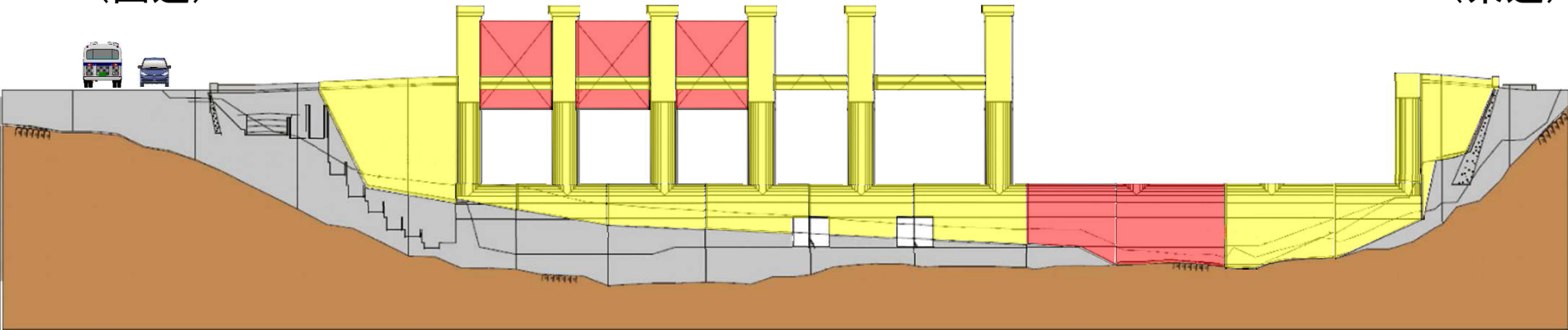




左岸
(国道)

ゲート(右岸側3門)及び右岸みお筋部撤去

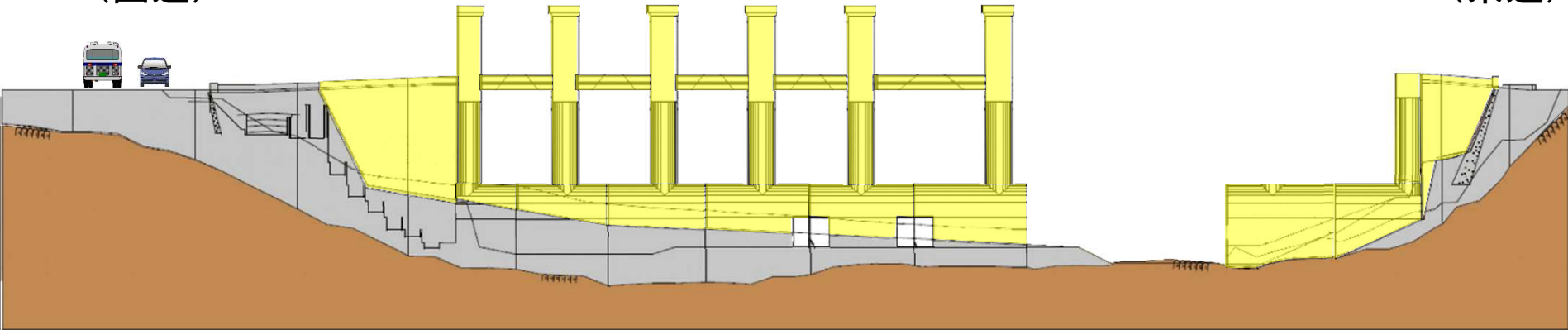
右岸
(県道)

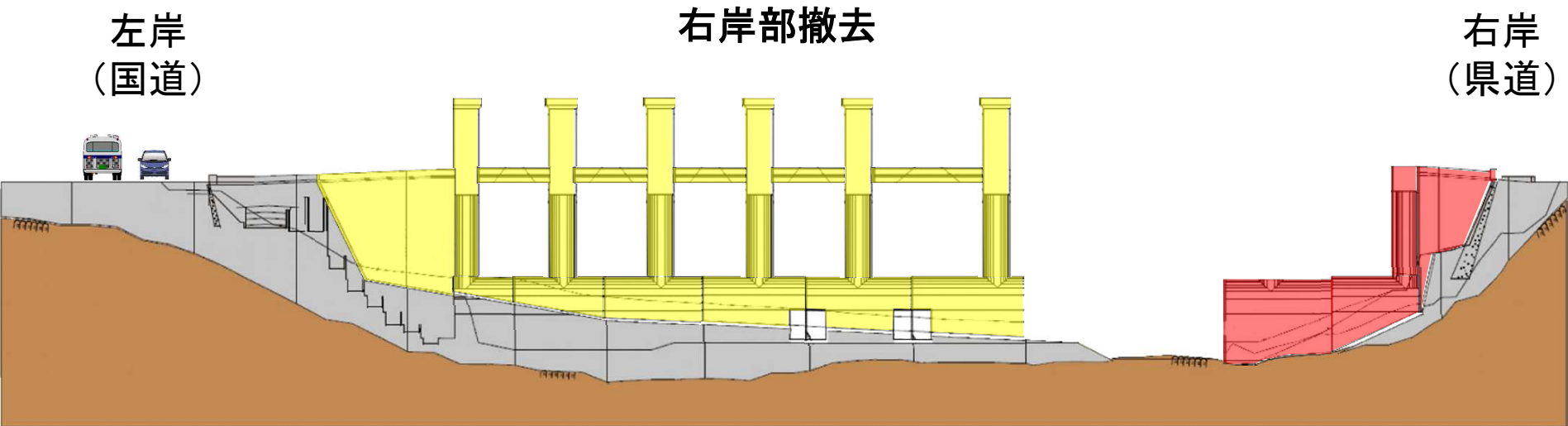


左岸
(国道)

第三段階完了(みお筋部撤去)

右岸
(県道)

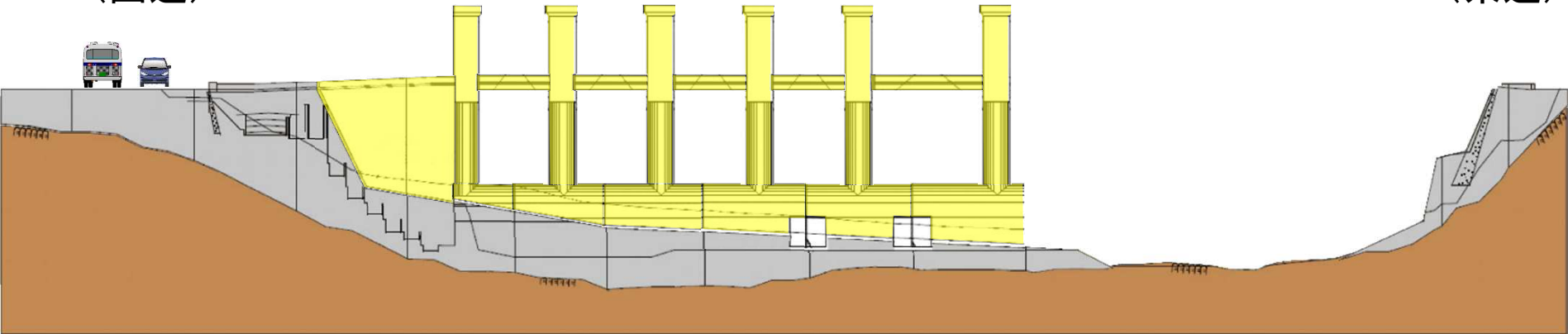


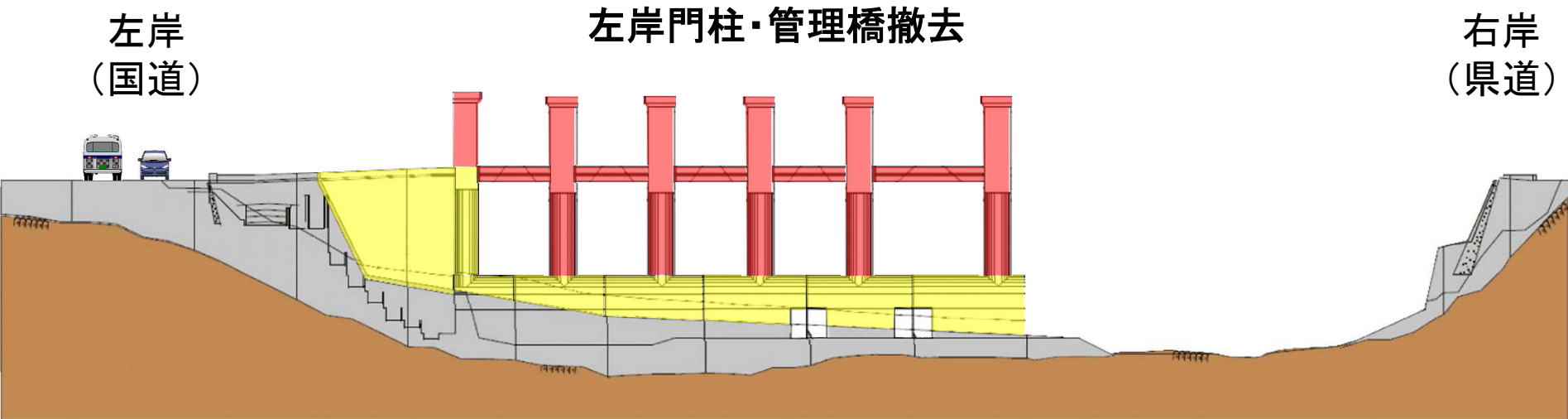


左岸
(国道)

第四段階完了(右岸部撤去)

右岸
(県道)

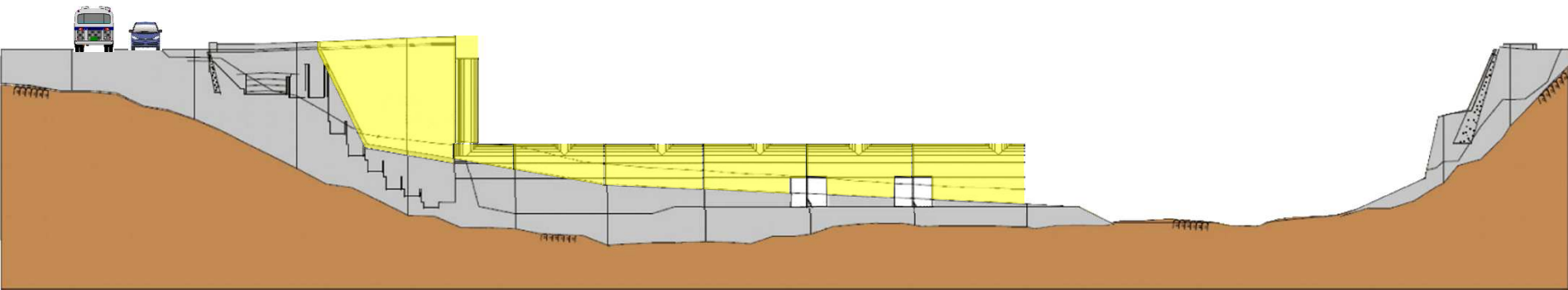


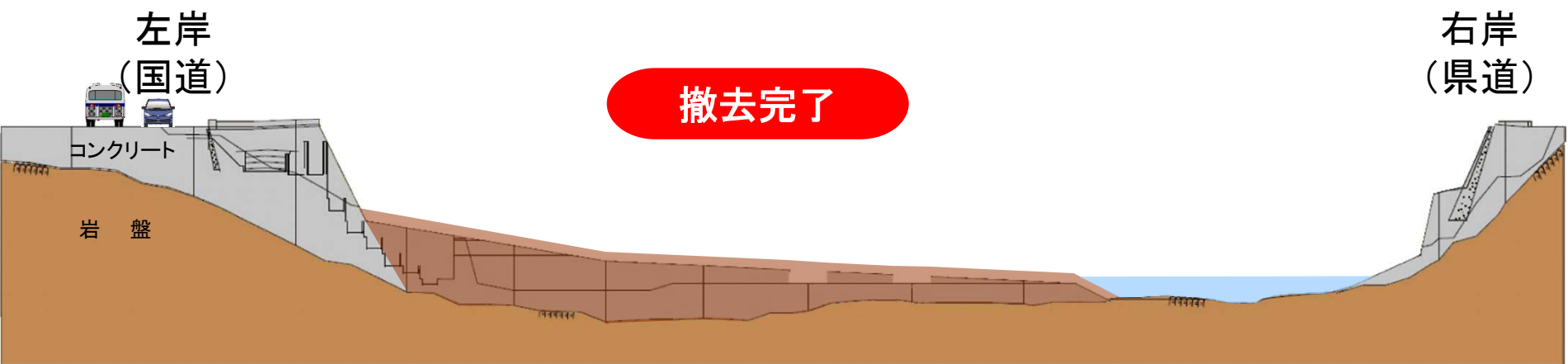
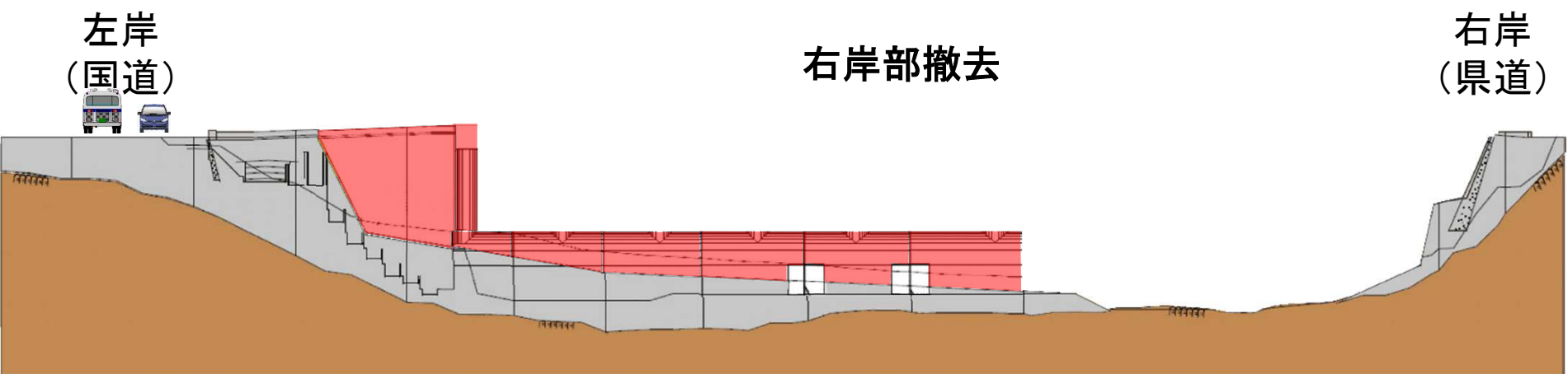


左岸
(国道)

第五段階完了

右岸
(県道)





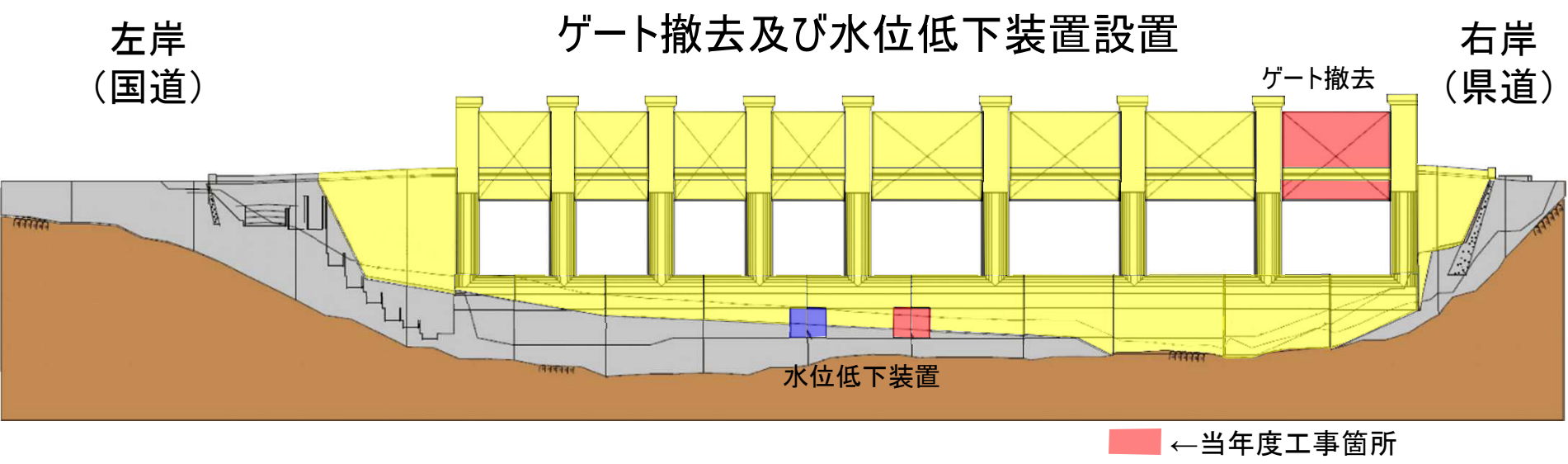
※元地形(建設当時)から2mの深さを基準に撤去し、コンクリートが露出しないよう覆砂。



平成24～25年度の 撤去工事概要について

【ダム本体撤去工事】

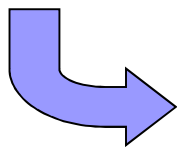
- ・平成24年度工事について



- 右岸側 1 門目 (第 8 ゲート) の洪水吐ゲート撤去
- 水位低下装置の設置 (2 門→**右岸側 1 門**)

第8洪水吐ゲート撤去

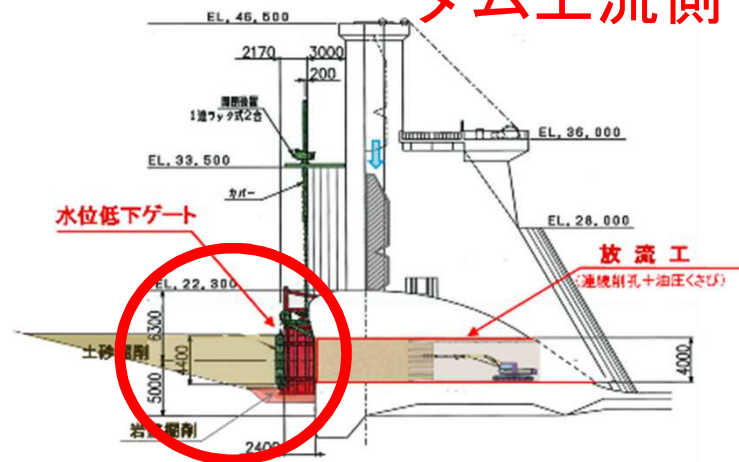
- ・ 右岸側1門目を撤去(平成24年10月)



水位低下装置(水位低下ゲート)

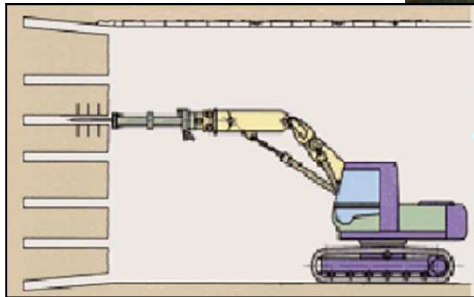
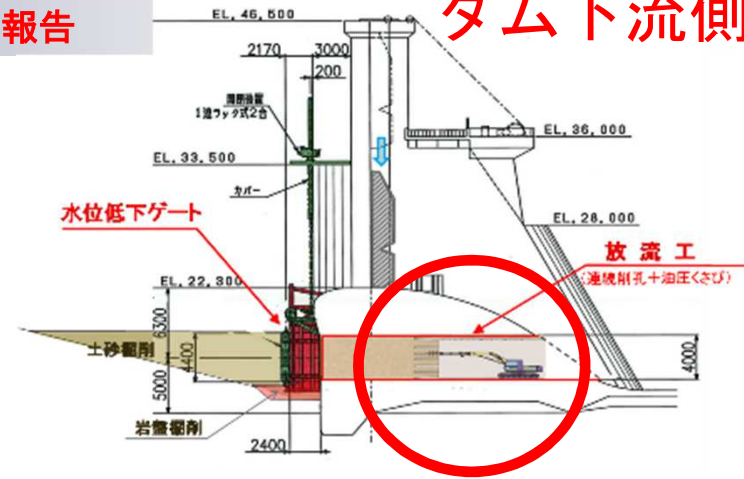
平成24年度工事の報告

ダム上流側



放流工掘削状況

- ・ 破碎工法(連続削孔+油圧くさび)



放流工掘削断面



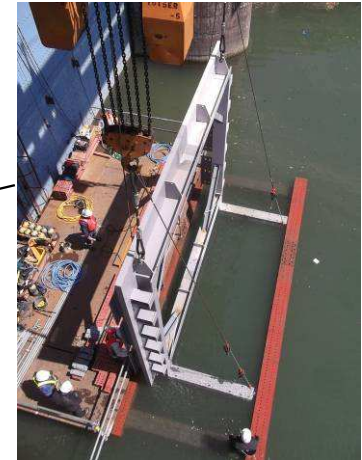
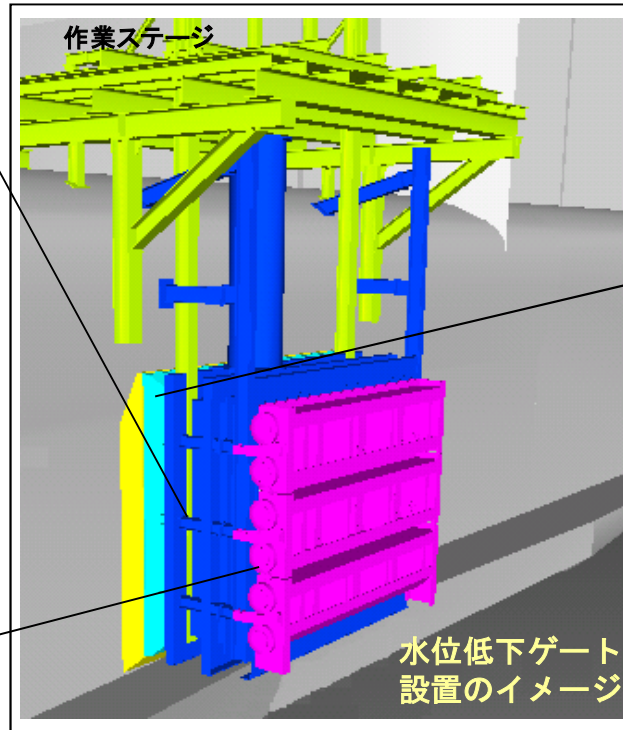
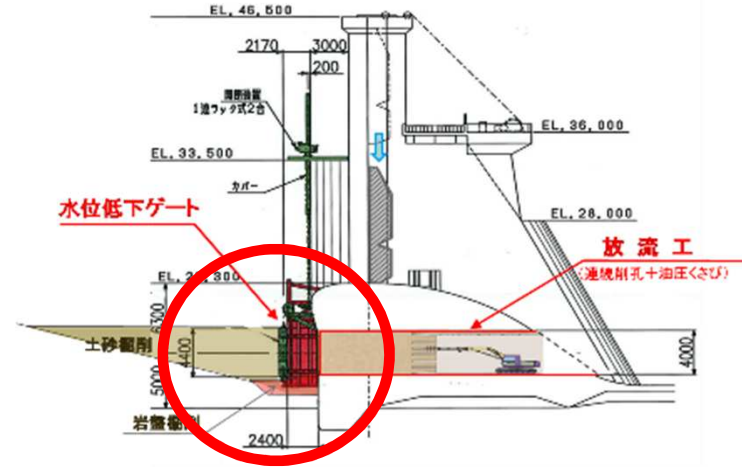
水位低下ゲート 設置状況



受枠(中間・上流)設置



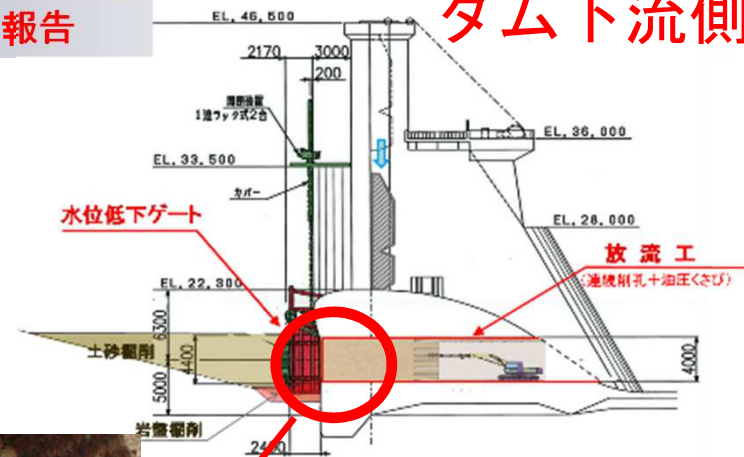
ローラーゲート設置



受枠(下流)設置



放流工掘削状況



放流工貫通

平成25年5月26日



環境対策（汚濁防止膜）



汚濁防止膜

上流側

下流側



環境対策（タイヤ洗浄装置・防音壁）



【ダム本体撤去工事】

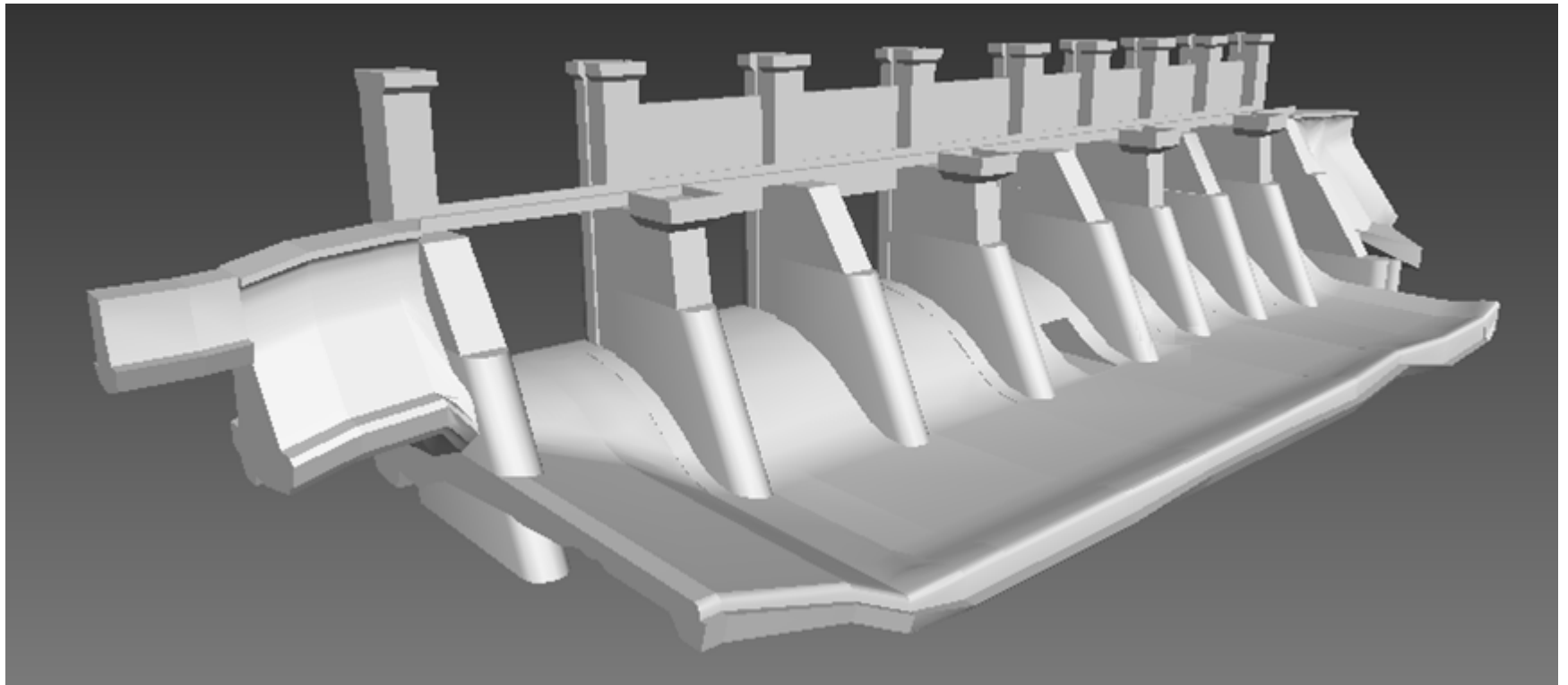
- ・平成25年度工事について

左岸
(国道)

ゲート(4門)及び右岸門柱・管理橋撤去

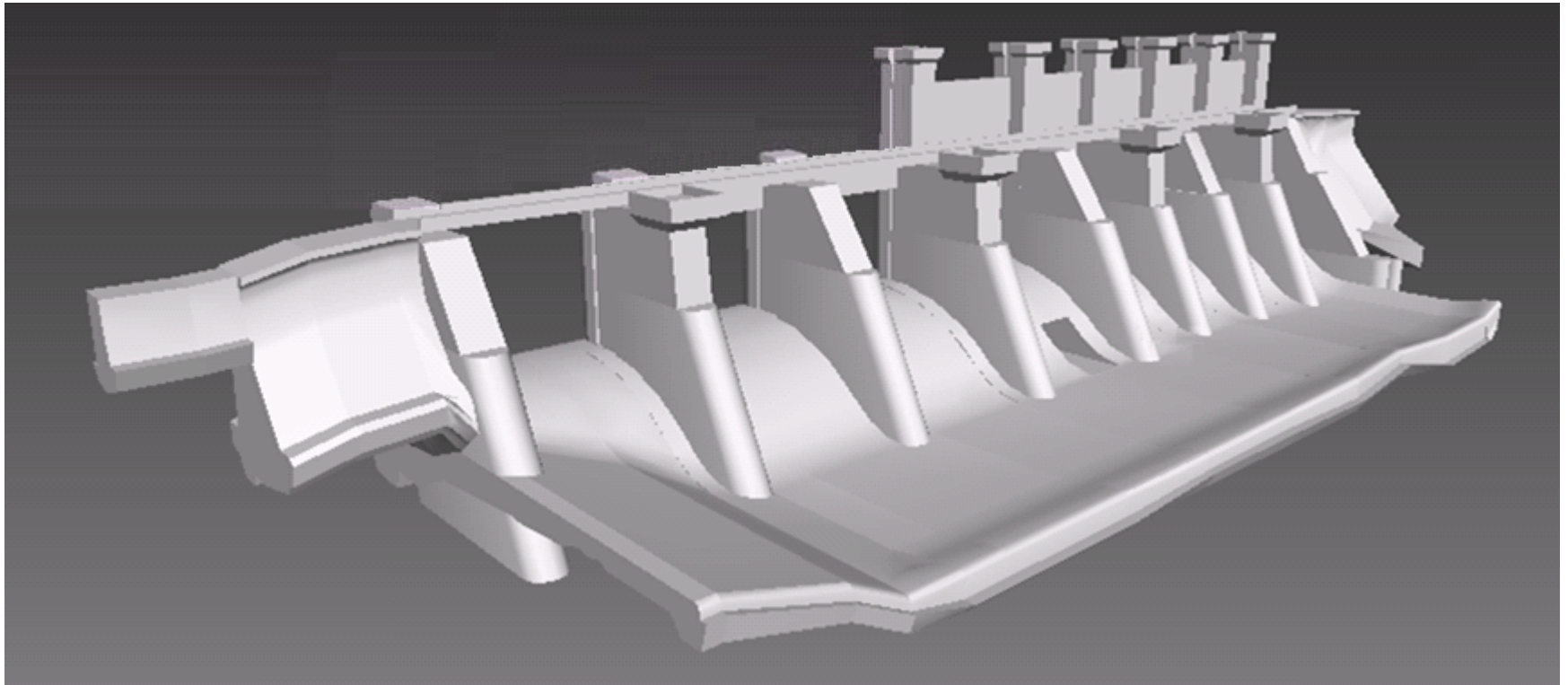
右岸
(県道)

- ・ 水位低下装置の設置 (左岸側 1 門)
- ・ 洪水吐ゲート (第 4 ~ 第 7) の撤去
- ・ 右岸門柱及び管理橋の撤去



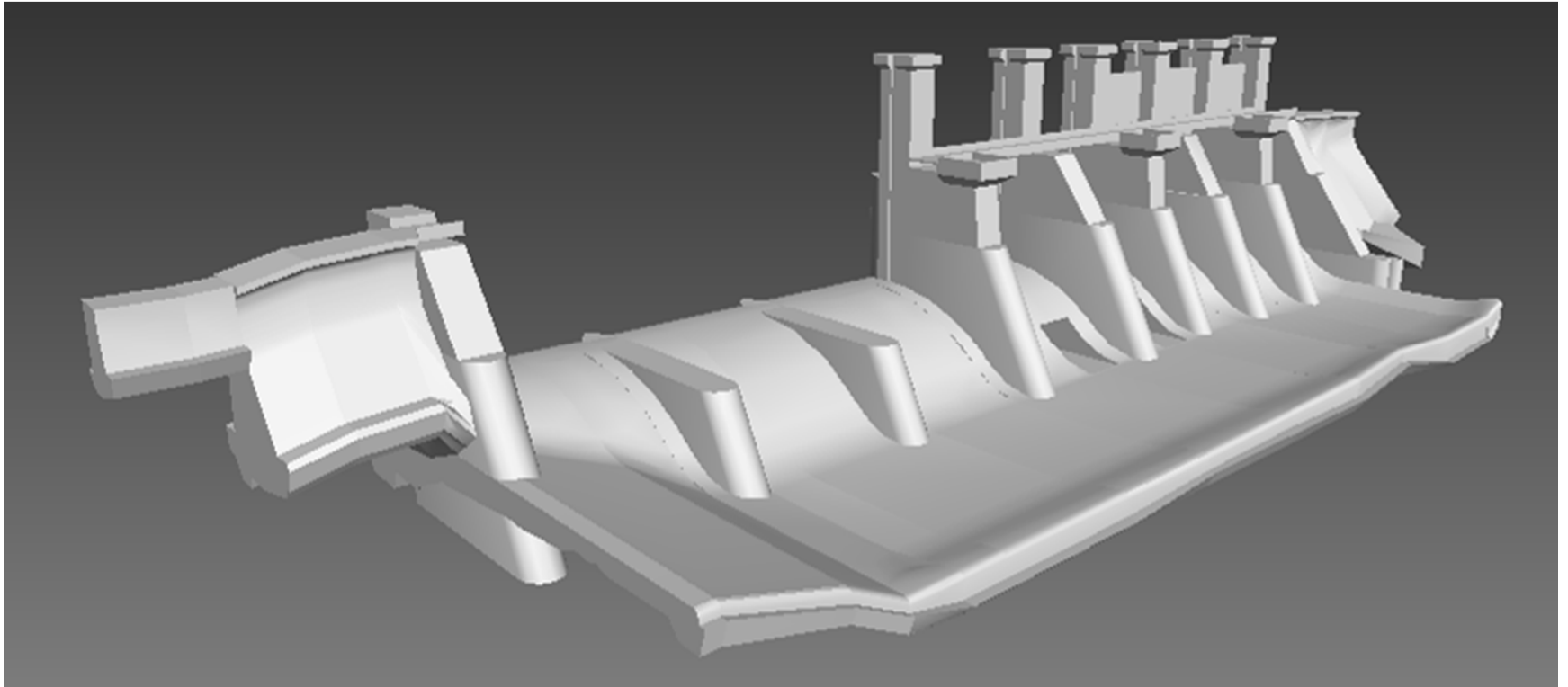
現在の状況

- ・ 洪水吐ゲート（第8）の撤去完了
- ・ 水位低下装置の設置（右岸側1門）完了



➡ H25 非出水期までに施工

- 【流水の影響を受けない範囲を撤去】
- ・ 洪水吐ゲート（第6～第7）の撤去
 - ・ 右岸門柱上部の撤去



非出水期に施工 → H25施工完了時点

- 水位低下装置の設置（左岸側1門）
- 洪水吐ゲート（第4～第5）の撤去
- 管理橋の撤去
- 右岸門柱下部の撤去



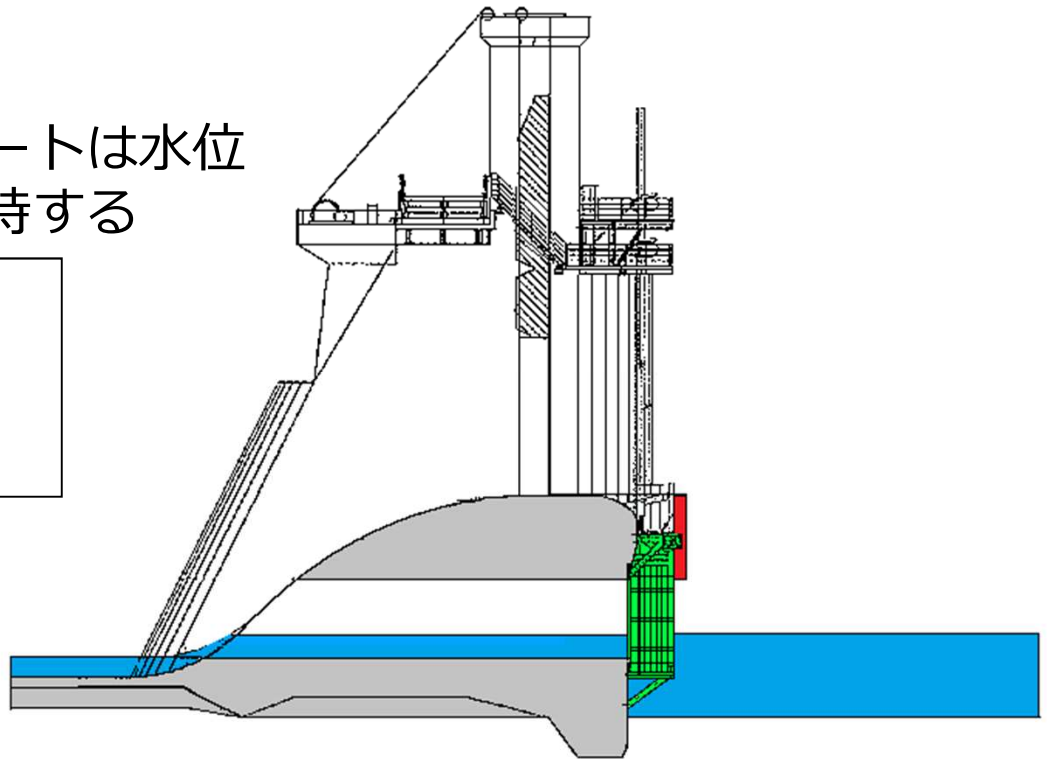
水位低下の状況

荒瀬ダム水位低下に係る運用について

- ・ゲート操作は1日1回を原則とする。
- ・水位低下速度を平均的に1日70 cmとなるように調整する。
- ・いったん全開になったゲートは水位低下完了するまで全開を維持する

【水位低下開始】

6月10日12時開始



上流側



下流側



水位低下の状況

上流側



約5m水位低下

下流側



約5m水位低下

葉木橋上流（6月10日）



葉木橋上流（6月15日）



葉木橋下流 (6月4日)



葉木橋下流 (6月15日)





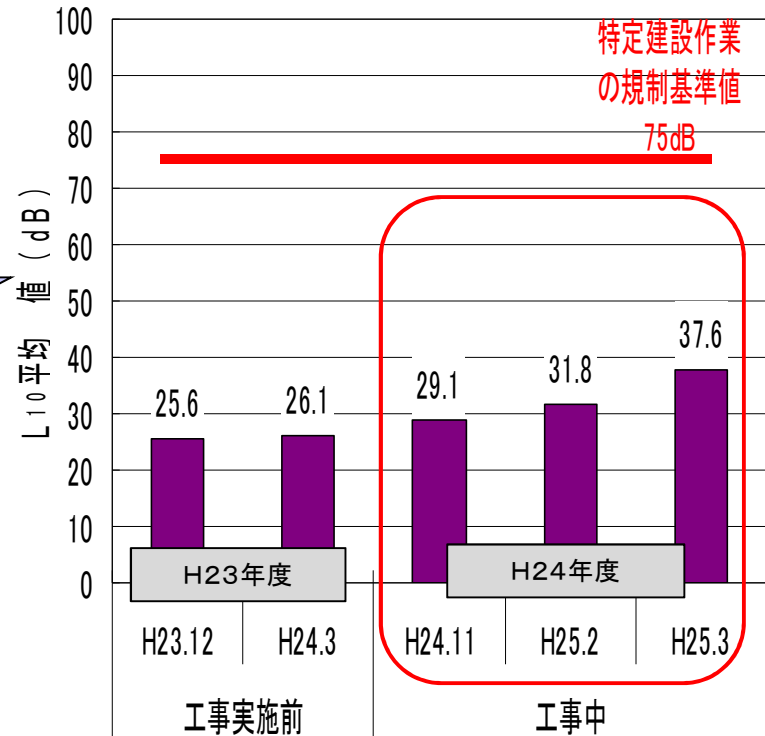
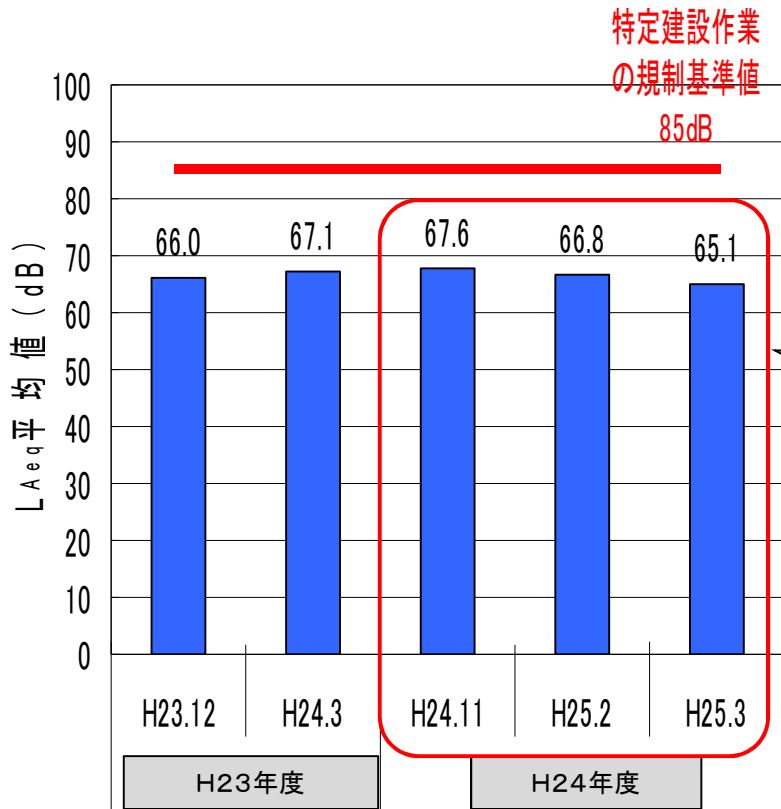
モニタリング調査 について

■ 騒音: 規制基準値(85dB)以下

■ 振動: 規制基準値(75dB)以下

St.1 ダム堤体直上流左岸

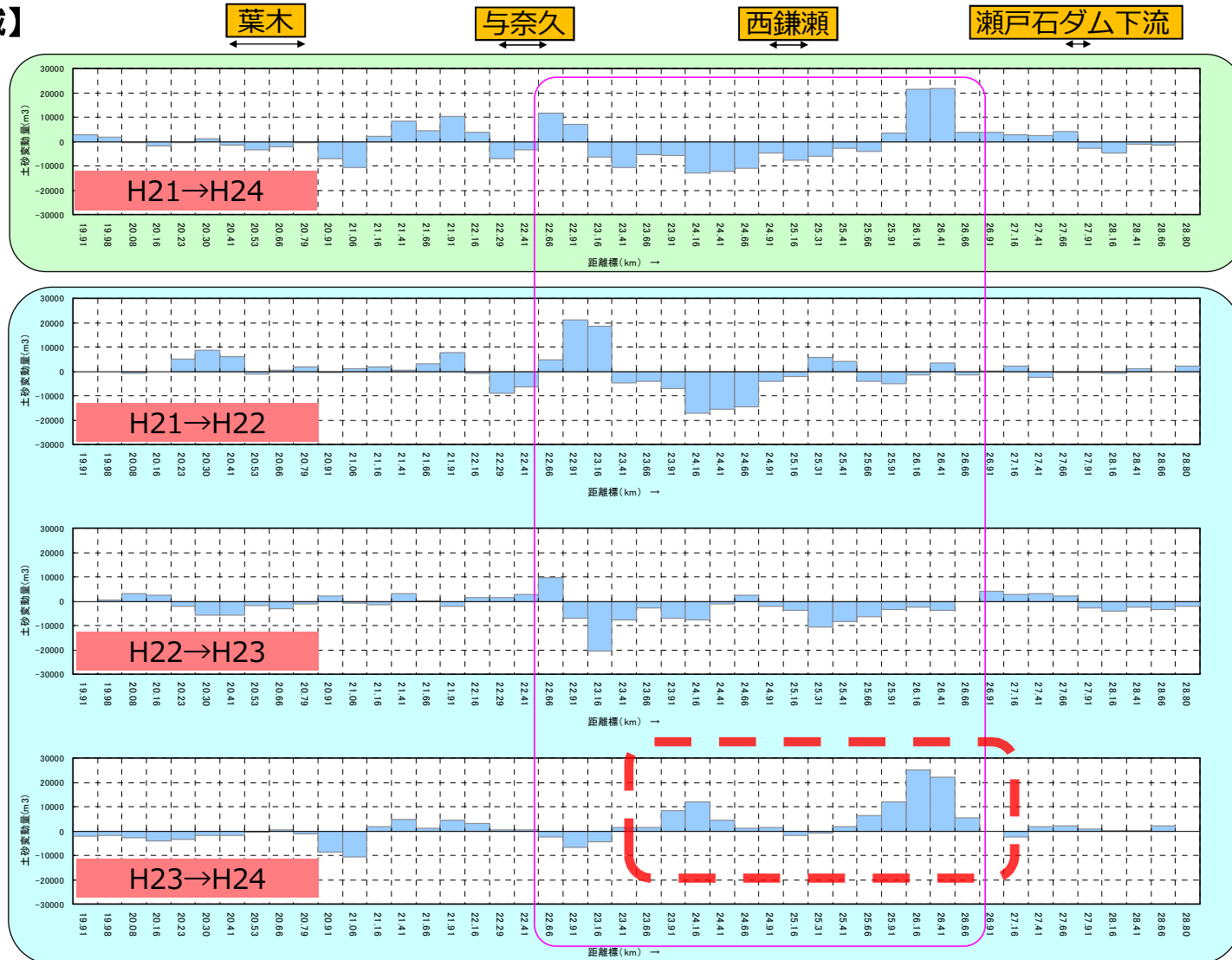
St.2 工事用進入路の入口



河川形状（土砂変動量）

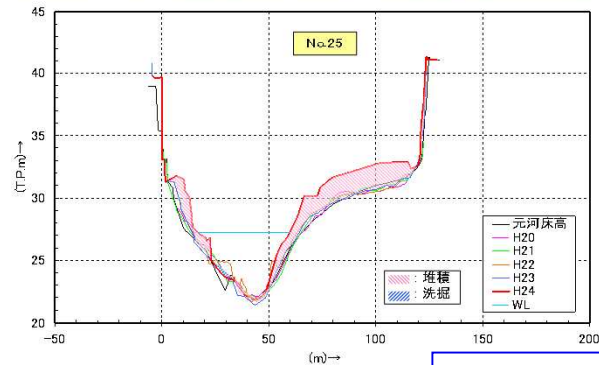
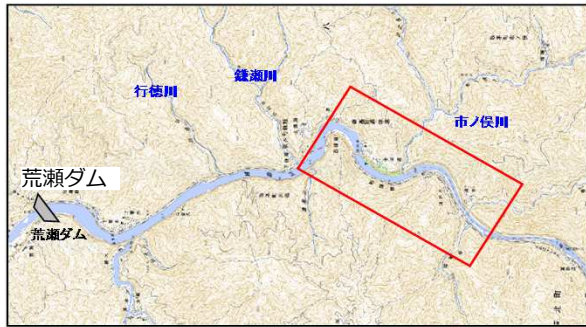
- ダム上流区間は、与奈久地区～鎌瀬川上流～西鎌瀬（22k5～26k5）の第一流水回復区間で変動しており、ゲート開放後の土砂移動が活発になっている。

【ダム上流域】

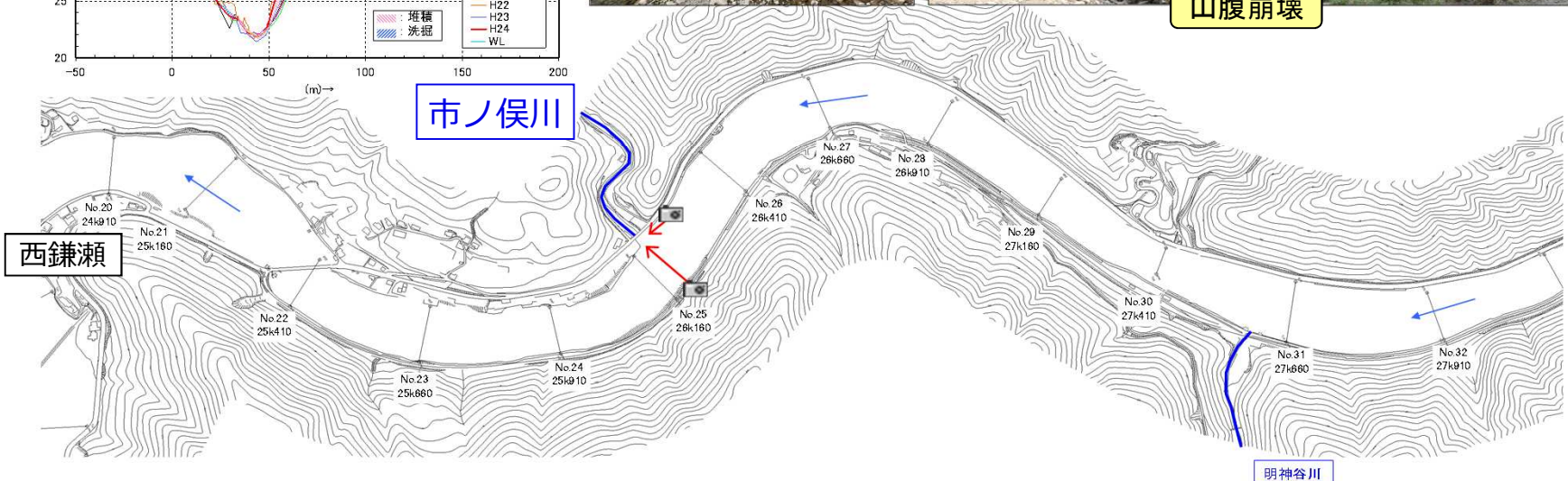


河川形状（支川からの土砂流出）

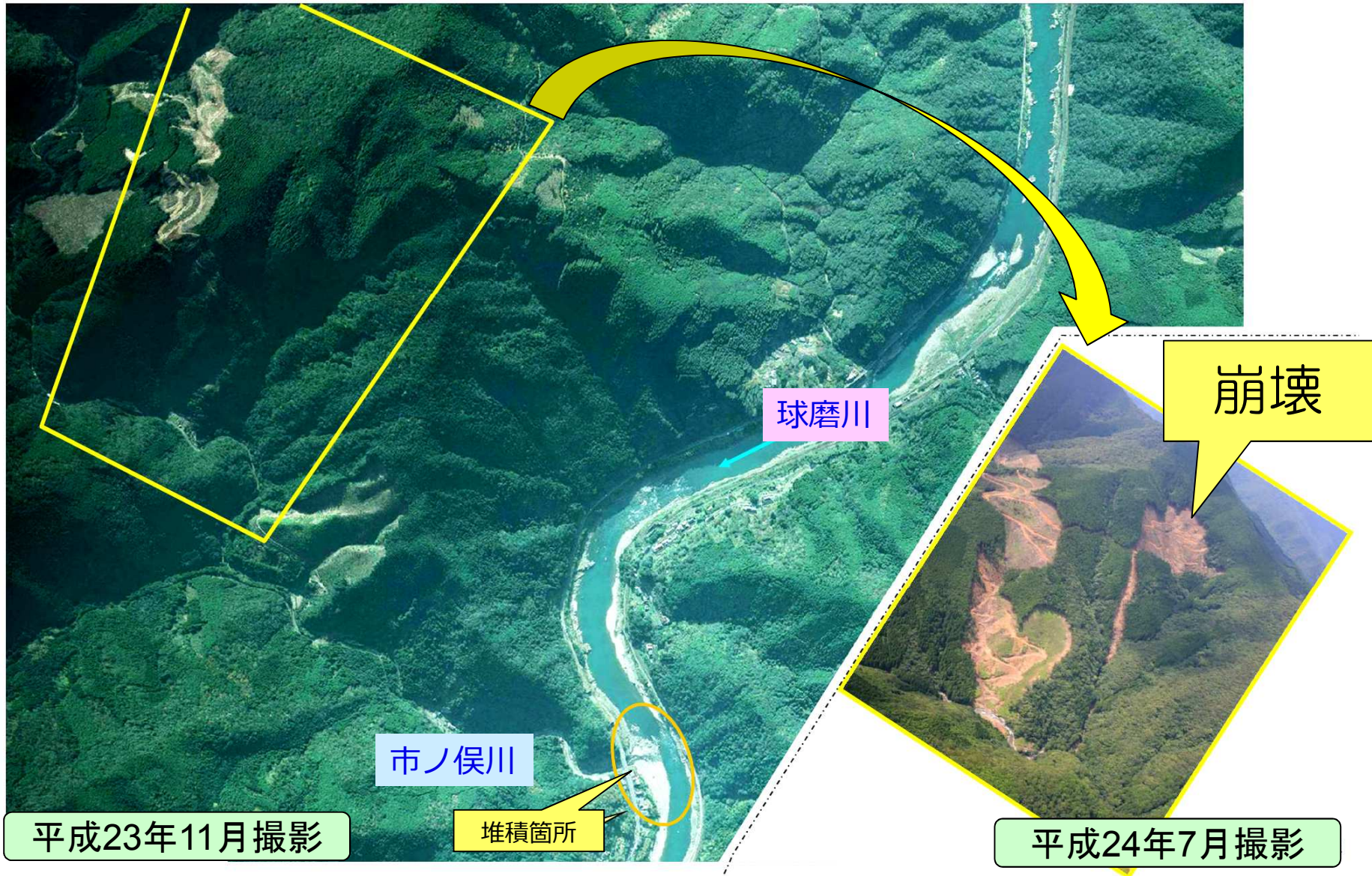
- 市ノ俣川では、上流区間の山腹崩壊がみられ、本川への流出土砂が増加。



山腹崩壊



河川形状（支川からの土砂流出）



平成23年11月撮影

市ノ俣川

堆積箇所

球磨川

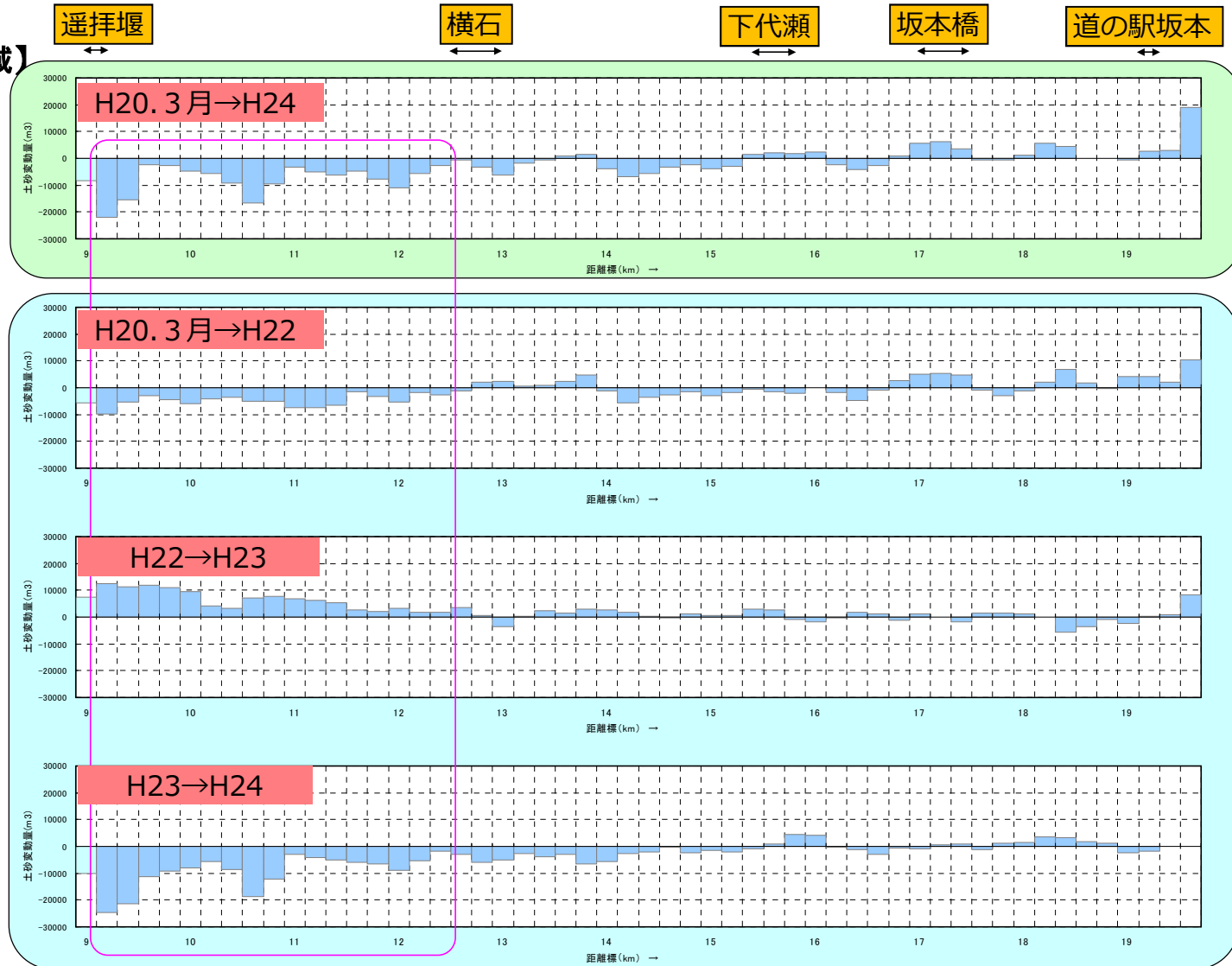
崩壊

平成24年7月撮影

河川形状（土砂変動量）

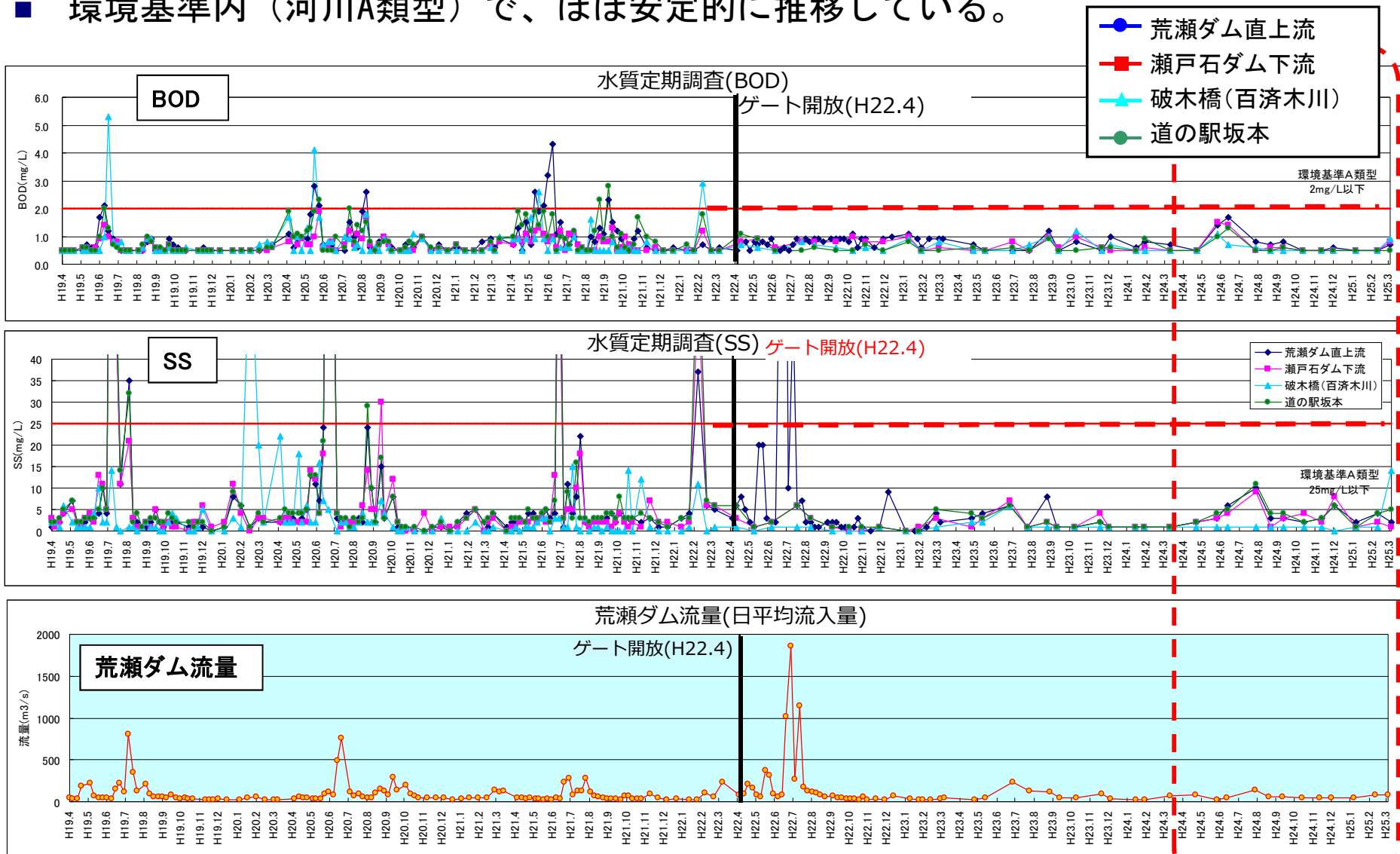
- ダム下流区間は、遙拝堰の湛水区間（9k2～12k4）で変動しているが、他に顕著な変化はみられない。

【ダム下流域】



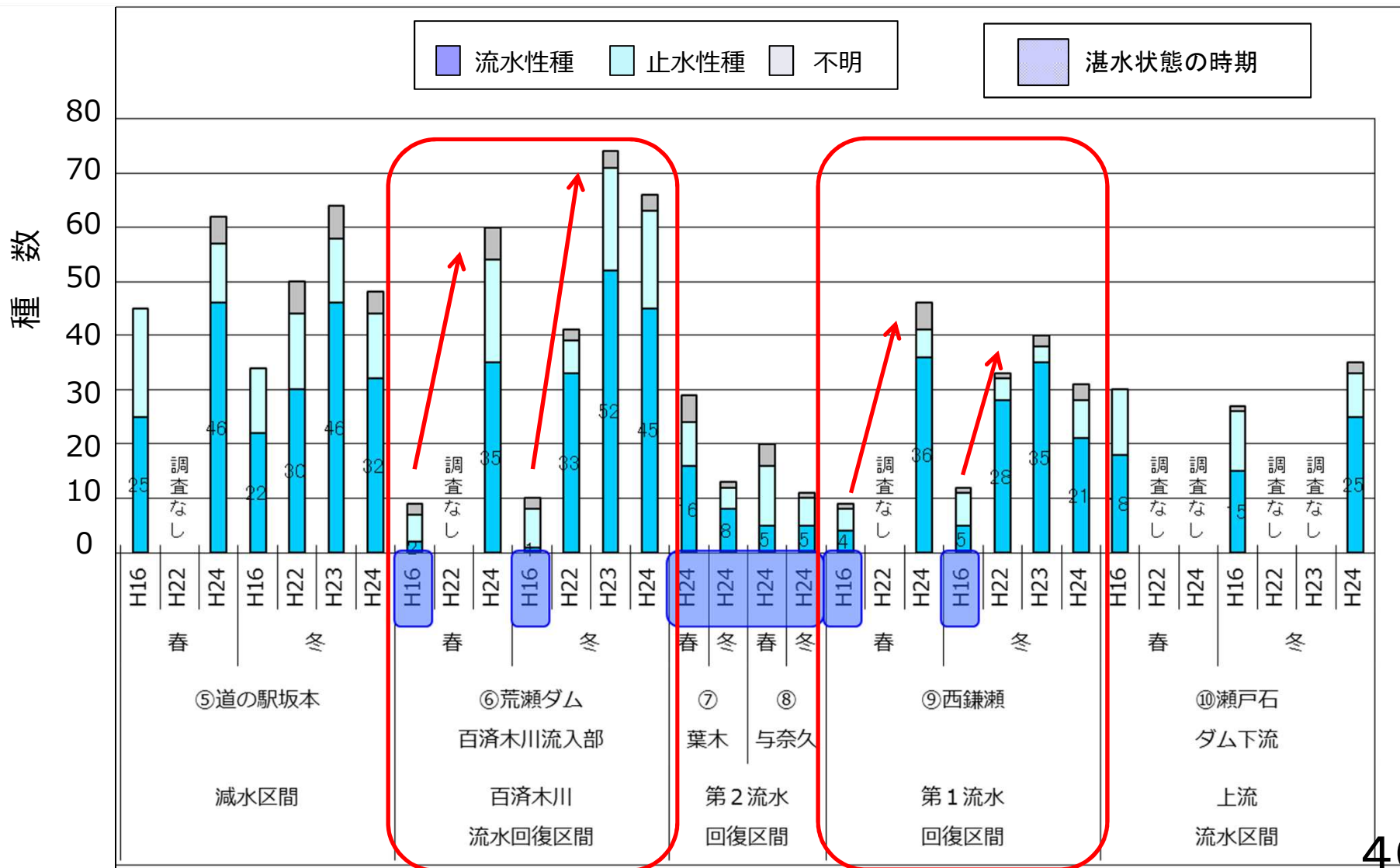
水質（定期観測）

■ 環境基準内（河川A類型）で、ほぼ安定的に推移している。



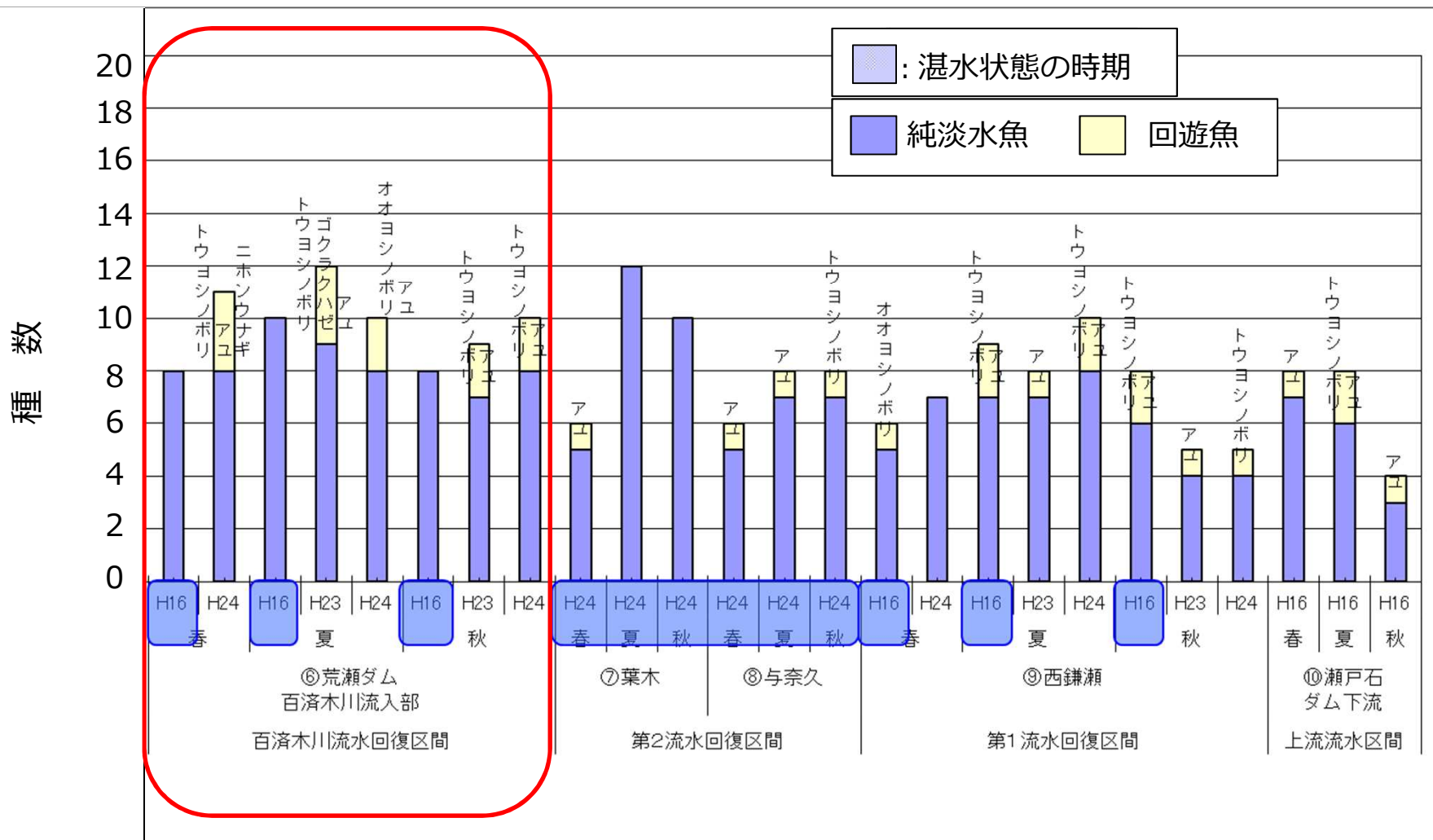
底生動物・H16→H23年度は百済木川流入部で大きな変化。

・H24年度は大きな変化は見られなかった。



動物（魚類）

- ・ H16 → H23年度は百済木川流入部で大きな変化。
- ・ H24年度は大きな変化は見られなかった。



- 平成24年度に新たに確認した重要種は2種で、ヤマトシマドジョウ(魚類)及びコガタノゲンゴロウ(底生動物)であった。

ヤマトシマドジョウ(魚類)



ヤマトシマドジョウ

河川の中流域に生息する。川の流れの緩い砂礫底部や比較的水のきれいな池や湖に生息する。

コガタノゲンゴロウ(底生動物)



コガタノゲンゴロウ

平地や池の水田などに生息する。



終了

